

宮崎市立宮崎東中学校の学力向上への取組



1 学校の概要

宮崎市立宮崎東中学校は、戦後、宮崎市で最初に創設された歴史と伝統のある学校である。昭和37年には、学級数29学級、生徒数1400名の大規模校であったが、現在は学級数10学級、生徒数341名である。本校の校訓は「礼を正し 場を清め 時を守る」、生徒会訓は「汗を出そう 声を出そう 知恵を出そう 我が東中」であり、現在の様々な取組は、この校訓・生徒会訓のもとに行われており、生徒及び職員にしっかりと浸透している。交通の便も良く、校区内には、江平商店街があり、アパートやマンションも多く、商業地と住宅地が混在している地区である。宮崎大宮高校・宮崎東高校、そして宮崎公立大学や県総合文化公園と隣接し、文教の町でもある。

2 生徒の実態

生徒の学習に取り組む態度や意識の実態をつかみ、指導にいかし、さらに学力向上を図るため、5月に「学習意識調査」を行った。その結果、全体的に忘れ物をする生徒が固定化しており、返事の声や挙手の仕方についても指導の継続が必要であること、そして、課題への取組が充分でなく、家庭学習の習慣化を図る必要があることが分かった。12月にも同様の調査を行い、生徒の変容をつかみ、研究の検証を行う予定である。

家庭学習の実態を把握するため、「家庭学習実態調査」を行っている。家庭学習の全校平均時間（平日）は、約2時間であった。7月現在での通塾率は、全校平均で58%であった。

また、中学2年生を対象に行われた、県の「小・中学校学力調査」の結果を分析し、特に学習意識に関する項目で課題としてあげられた質問事項を中1・中3にも実施し、手立てを講じ、2年生と同様にその変容をとらえるようにした。

学力の実態把握としては「標準学力検査」の結果を用い、各教科で指導の教科及び改善が必要な分野をあげた。さらにその分野に対する具体的な改善策をたて実践するようにした。

	国語	社会	数学	理科	英語	計
自校の平均点	86.0	66.5	77.0	73.9	87.2	390.6
県の平均点	80.6	60.6	67.8	66.5	75.7	351.2
来年度の目標（平均点）	87.0	68.0	78.0	75.0	88.0	396.0

▲県学力調査（第2学年）の結果

3 学力向上に向けた経営方針

(1) 重点目標

小中連携を図り、確かな学力の向上に努め、[生きる力]を育成する。

(2) 努力事項

① 基礎的・基本的な学力の定着

学習指導法の改善と評価の工夫に努め、基礎的・基本的内容の確かな定着を図り、生徒一人一人の個性や能力を伸長するとともに、望ましい学習態度の育成に努める。

② 学習指導法の改善と充実

生徒一人一人が意欲的・主体的に学習に取り組むよう、教材教具の工夫や教育機器の効果的な活用、少人数指導・選択の時間の工夫・充実に努める。

③ 学校と家庭・地域社会との連携強化

学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割を明確にし、その機能を発揮するとともに、三位一体となって地域に根ざした開かれた学校づくりに努める。

4 教育課程内の取組

(1) 学業指導の徹底

本校は、ノーチャイムであり、生徒自身が時計を見て行動する必要がある。これは校訓の「時を守る」の具現化の一つでもある。授業開始2分前着席をはじめ、1分前黙想、礼法、挙手、発表の仕方などの指導を徹底し、授業を受ける態度を身に付けさせる。毎時間全教科でその達成度を記録し、集計したものをもとに、企画委員会及び職員会で反省を行っている。また、生徒会学習委員会の取組の一つとして、心鈴徹底旬間を設け、2分前着席ができなかった生徒の人数を集計して放送で伝え、0を目指す意識を高めあえるように活動している。

指導チェック項目	3年1組									
	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技・家	計
① 2分前着席は完璧か	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
② 大きな声であいさつはできたか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③ 4テンポの礼ができていますか	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
④ 返事はしているか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤ 手を真っ直ぐ挙げているか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▲学業指導チェック表

(2) 「学びあい」の研究

① 「学びあい」の基本的な考え方



「学びあい」は、確かな学力を向上させるための手立てと考え、「鍛えあい」「認めあい」「高めあい」を包括したものととらえる。学びあいには、言語によるものと、うなずき・拍手などの非言語によるものがあると考え。よって、それぞれの場や方法を工夫することにより「学びあい」が深まる。

また、それは生徒相互、生徒と教師等による複数の人との関わりによって実現されると考える。

② 「学びあい」のとらえ方

【鍛えあい】

学習の中で「声に出し合い」「練習し合い」「教え合い」「競い合い」ながら、学習の基礎・基本の確実な定着を図ることを目指し、個人の資質を高めていく活動ととらえる。

【認めあい】

学習の中で、「共感的なふれあい・伝え合い」「友だちの考えのよさへの気付き」「自己評価・相互評価」などの活動を行うことにより、学習の成果や課題、お互いの考えのよさや伸び、定着の様子などを分かり合い補い合っていく活動とする。

【高めあい】

集団又は個人が、話し合い活動を通して、もっている考えを確かなものにしたり、改めたりして、より高次なものを追求し、練り上げていくことを指す。また、個人や集団の伸びを感じて振り返ることともとらえる。

③ 「学びあい」の実際

学習形態	学びあいの実際	
ペア学習	○前時の復習 ○話し合い活動 ○教え合い学習 ○音読	・基本的な学習内容の確認及び定着 ・意見交換 ・問題の出し合い ・読みや暗唱の練習（ペア読み） ・作文や作品等の鑑賞
グループ学習	○話し合い活動 ○教え合い学習 ○音読 ○観察・実験	・意見交換 ・技能の習得 ・読みの練習（交互読み、リレー読み等） ・意見をまとめる ・作文や作品等の鑑賞
全体学習（一斉）	○話し合い活動 ○音読	・意見交換 ・めあての意識化 ・意見をまとめる ・読みの練習

④ 各教科における「学びあい」の設定と評価

学びあう学習活動は、目標達成のための手段である。学びあいの方法が適切であったか、その目標が達成されているかどうかを評価し、それを生徒に伝え、次時への意欲付けを図ることは、指導者の授業改善を図るために重要である。そこで「学びあい」にはどのような場面があり、どのような状態の時に学びあいの効果があったといえるのかを、各教科ごとに検討しまとめ「各教科の学びあい及び学びあいの評価」を作成した。その一覧表を参考にして評価場面を、ワークシートへ挿入、又は自己評価の一覧表の形で作成し実践している。さらに、研究授業等で、本時の学びあいが機能していたかどうかを客観的に相互評価し、授業改善を図るようにした。



▲小中連携交流授業英語の学びあい

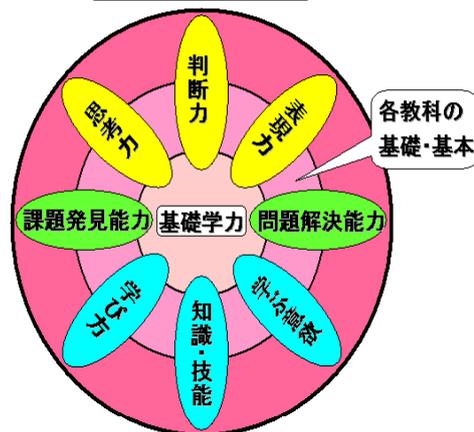
(3) 小中連携合同研究会

5月に小中連携合同研究会を開き、学習内容の情報交換、各教科ごとの「重点化した確かな学力」の決定、指導方法等の共通理解を図った。

◆ 各教科の「重点化した確かな学力」

教科名	重点化した確かな学力
国語	表現力(言語を通して伝え合う力)
社会	知識・理解, 思考力・判断力
数学	知識・技能, 思考・表現力
理科	思考力
英語	学ぶ意欲, 知識・技能, 表現力
音楽	表現力
美術	表現力, 思考力
保健体育	学び方, 問題解決能力
技術・家庭	思考力, 判断力

確かな学力



7月には、実態調査をもとにした意見交換、「重点化した確かな学力」を向上させるための具体的な取組、小中連携サマースクールの実践内容の確認、交流授業の打合せ、評価方法の実際についての協議を行った。

5 教育課程外の取組

(1) サマースクールの実施

中学生を対象に、夏季休業の8月10日までを前半、8月18日までを後半としてサマースクールを行った。ねらいを「長期休業を利用して、個に応じた補足的な学習・発展的な学習の場を設定し、学力向上を図る」として、全教科で取り組んだ。参加者については、事前に希望を取り、その上で日頃の学習状況や単元末テスト結果等をもとに決定した。時間帯は、9時から開始し、50分授業を5コマ入れるようにした。継続して取り組んだ生徒は、着実に基礎・基本の定着が図られた。サマースクールの延べ時間数は222時間であった。

(2) 小中連携サマースクールの実施

小学生を対象に、小中連携サマースクールを7月22日から8月5日にかけて実施した。そのねらいは、「各教科の専門性をいかし、その教科の学習に対する興味・関心を高め、さらに中学校での学習の意欲づけを行う」である。今回の小中連携サマースクールは、具体的な学習内容を明示して、小学校への連絡をできるだけ早く行うようにした。さらに、指導内容が児童の実態に沿うものかどうかを小中連携合同研究会で協議し確認した。指導計画書を作成することで、指導内容が充実し、次年度への引き継ぎを容易にすることができた。参加児童の延べ人数は230名であり、アンケート調査結果から、ねらいは達成できたといえる。

6 保護者・家庭、地域との連携

(1) 各教科の「授業の進め方」の伝達

4月の参観日に、各教科の授業の進め方・評価の仕方についてまとめたものを冊子にして配付し、保護者に伝えた。

(2) 学習成績の連絡

5教科において、日頃の授業への取組、単元末テストの結果、定期テストの結果等を記入した成績連絡表を作成し配付している。長期休業前には、必ず配付するようにして、三者面談で活用するようにした。定期テストの結果や通知表以外の取組を伝えるだけでなく、生徒自身が学習を振り返り、自分の課題を意識できるようにしている。

単元名	コース名		単元末テスト			自主学習	発表	フリント		授業への取組み			
	アドバンス	ベース	再1	再2				No.1	No.2	宿題	忘れ物	2分前着席	発表
1. 式の計算			点	点	点								

▲数学科成績連絡表[Math Record]

(3) その他の取組

ホームページを利用した情報の提供や家庭と研究をつなぐ研究便りを発刊し、家庭・地域社会との連携を図っている。また、小学校との作品交流を行い、学びあいができる学習環境を作り出している。

7 成果と課題

(1) 成果

- どの教科においてもワークシートの活用が定着し、指導者は授業の構成力を高めることができた。生徒はめあてを意識して学習に取り組み、基礎・基本の定着が図られた。
- 生徒の学習意欲を引き出すように、評価について重点化して取り組むことができた。

(2) 課題

- グループ活動における「学びあう場」を毎時間設定することが困難であるが、年間計画の中で、重点的に設定していくようにしたい。
- 教科の実態の差をうまく調整して、共通実践のできる評価についての一覧表を統一していきたい。
- 学びあいの見直し・実践までは取り組むことができたので、今後は学びあいの評価を通して検証を行い、学びあいを再構築していきたい。